



The 1st Symposium on Personalized Oral Health Scienceを開催【関連記事3ページ】

リハビリテーション科学部の完成年度を迎えて



リハビリテーション科学部長 泉 唯史

本学5番目の学部としてリハビリテーション科学部が2013年4月に誕生しました。実に2年以上にもわたる理事会や設置準備委員会などの熱心な議論と綿密な準備を経ての誕生でありました。

この学部開設で理学療法学科と作業療法学科の教育が、また同時に開設された大学院リハビリテーション科学研究科博士前期課程がスタートしました。

その後、文科省によるアフターケアと称する実地調査が同年8月にあり、またリハビリテーション科学研究科の博士後期課程設置の準備を開始し、さらにリハビリテーション科学部に心理科学部からの言語聴覚療法学科改組の準備も始まりました。

2015年4月より、リハビリテーション科学部は理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科の3学科体制となり、大学院リハビリテーション科学研究科は生体構造機能・病態解析学分野、リハビリテーション治療学分野、地域健康生活支援学分野の3分野を擁する大学院博士前期課程(修士課程)と博士後期課程(博士課程)を持つ学部・研究科となりました。このように本学部は開設以来、これまでの他学部にはない短期間で非常に大きな展開がありました。

このような事業を遂行しえたことは、学園本部や事務局および他学部からの多面的な支援、そして本学部教員の弛みない努力と忍耐力と建設的で従容たる日常業務の積み重ねがあったからこそこの結果であると思います。

しかし本当の結果、すなわち私たちの育んできた果実は

真に社会に貢献できる存在になりえるのか、その答えはまだ出ていません。その答えの一つが就職活動の成果であり、また1期生の国家試験合格の成否でありましょう。

就職活動では、医療制度や診療報酬体系の改定、社会のニーズの変化という大きな波をかぶりながらも、専門性を生かし社会貢献をしたいという彼らの誠実で明確な意欲や動機、多職種連携を通して対象者により良い医療を提供していこうとする豊かな人間性や行動力といった面が大きく評価されます。

また国家試験では、合格率という数字が独り歩きしてしまっていますが、その背景にある普段からの基礎学習、学習態度、学びを中心とした規則的な生活、学びあえる友人との喜びの共有や教員の励まし・指導が重要です。日々の努力の積み重ねという極めて平凡ですが確実な結実への重要な要素であると考えています。

その上で、彼らがやがて医療従事者として、あるいは研究者や教育者として活躍するときに、リハビリテーション科学部で学んだ学問を基盤としてエビデンスを適切に使うこと、エビデンスを作ること、エビデンスを伝えること、これらの実現を通して、私たちの教育は真に実を結んだと言えるのかもかもしれません。

本学部は今年度で完成年度を迎えますが、これで“完成した”ということでは決してなく、幅広く社会のニーズに向き合い応えていける人材を輩出し続ける学部は今後も成長しなくてはならないと考えています。

CONTENTS

リハビリテーション科学部の完成年度を迎えて	1
新任教員・昇任教員紹介	2
学内合同就職相談会を開催 「福祉・介護のごと説明会」を開催	
極東国立総合医科大学 (ロシア・バロフスク)短期研修実施、 大学間交流協定締結	3
The 1st Symposium on Personalized Oral Health Scienceを開催 タイ・バンコク総務省の医療部門一行が 本学看護福祉学部を訪問	
INTERNATIONAL EXCHANGE	4
2017年度入試結果速報	6
札幌丘珠高等学校との高大連携授業を実施 札幌開成中等教育学校特別講義を実施	
地区別懇談会を開催	7
学園・同窓会役員懇談会を開催 平成28年度「後援会道南・東北支部(青函) 合同医療セミナー」を開催	
私の学生時代	8
OB訪問【看護学科】	9
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS	10-11
TOPICS	11-12
EDITOR'S NOTE	